

一般向け



こどもに関する取組みで熊本県が大事にすること ～「こどもまんなか熊本」の実現に向けて～

「こどもまんなか熊本・実現計画」のやさしい版

令和6年（2024年）10月4日
健康福祉部



はじめに

- 県民の皆さんが幸せにくらして、すくすくと成長できる「こどもまんなか熊本」をつくるために、熊本県は「こどもまんなか熊本・実現計画」（こどもに関する県の取組みの基本的な方針）を作ろうとしています。
- この冊子は、有識者会議（熊本県子ども・子育て会議）で議論してとりまとめた計画の中間整理です。
- 県民の皆さんといっしょに計画を作っていきたいので、次のページから書いていることについて「こういうことも大事にしてほしい」「もっとこんな熊本になったらいいな」「もっとこんなサポートをしてもらえたらいいな」という、皆さんの声をお聞かせください。



なんで計画を作るの？

- 貧困や虐待、いじめ、インターネット利用に関する非行など、今もこどもに関わる課題が今も多くあります。
- また、合計特殊出生率は、令和5年（2023年）で1.47（全国：1.20）、出生数も減少傾向にあり、平成15年（2003年）以降、死亡率が出生数を上回る自然減の状態となっています。
- 人口減少は、地域経済に対し、生産力の低下や消費市場の規模縮小だけではなく、担い手不足や技術・技能の継承が困難となるなど、広範な影響を与えることが懸念されています。
- そうした課題の解決に、社会全体で取り組んでいく必要があります。
- こども・若者がキラキラ輝き、県民が家庭や子育てに夢を持てる熊本にしていくために、こどもや若者、子育て当事者の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながら様々な取組みを実施していきます。

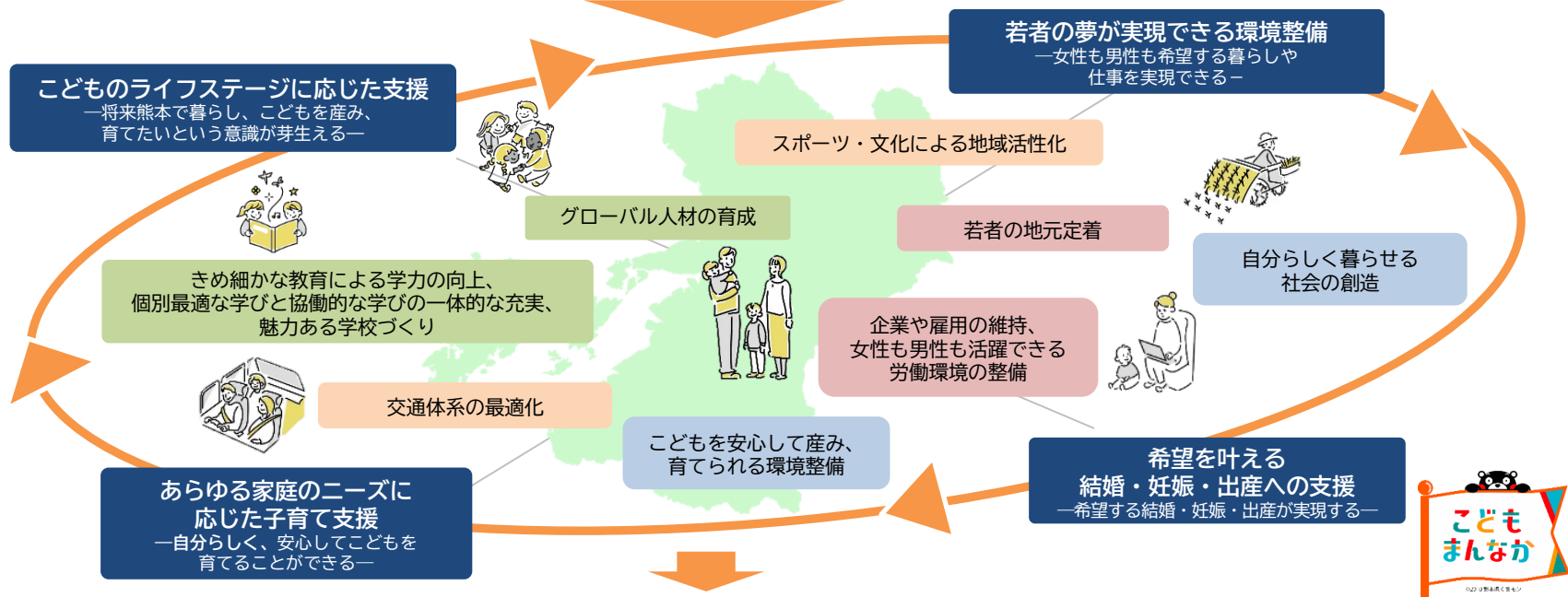


計画が目指す「こどもまんなか熊本」の考え方

- 「こどもまんなか熊本」は、**こども・若者がキラキラ輝き、県民が家庭や子育てに夢を持てる熊本**であり、あらゆる立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや若者、子育て当事者の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながら様々な取り組みを実施する熊本です。
- こうした「こどもまんなか熊本」の実現により、**こども・若者が、尊厳を重んぜられ、自分らしく自らの希望に応じてその意欲と能力を活かすことができるようになることや、こどもを産みたい、育てたいと考える個人の希望が叶うことにつなげ、こどもや若者、子育て当事者の幸福追求を支援します。**



**こども・若者、子育て当事者の視点（＝こどもまんなかの視点）に立って、
基本方針・総合戦略の重要な施策として位置付けた上で、連携しながら熊本県の施策を再構築します**



結果として、少子化・人口減少の流れを大きく変えるとともに、未来を担う人材を社会全体で育み、社会経済の持続可能性を高めます。

「こどもまんなか熊本」の実現により、
こども・若者、子育て当事者はもちろん、全ての県民の幸福を高めます。

こどもまんなか熊本・実現計画に関する基本的な方針

全てのこども・若者が幸せに暮らし、成長できるようにします

こども・若者の多様な人格・個性を尊重し、こども・若者の権利を擁護するとともに、良好な成育環境を確保することで、障がい、疾病、虐待、家族の状況その他の事情により社会的な支援の必要性が高いこども・若者を含め、全てのこども・若者が、大切にされている実感を持って、幸せに暮らし、成長できるようにします。

こどもや若者、子育て当事者のライフステージに応じた切れ目ない支援を実施します

若者の夢が実現できる環境を整備するとともに、多様な価値観・考え方を大前提として若い世代の視点に立って、それぞれの希望に応じた結婚・妊娠・出産・子育てへの支援を行います。

家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できるようにします

若者の夢が実現できる環境を整備するとともに、多様な価値観・考え方を大前提として若い世代の視点に立って、それぞれの希望に応じた結婚・妊娠・出産・子育てへの支援や結婚・子育てに希望を持てる環境の整備を行うことで、家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できるようにします。

関係機関と連携し、社会全体の気運醸成を行います

国、庁内関係部局、市町村、民間団体等との連携を重視し、国に必要な対応を求めることに加え、全庁を挙げて「こどもまんなか熊本」の実現に取り組むとともに、地域間格差をできる限り縮小していくことも念頭に置いて必要な支援を行うほか、県民や企業に取組みを求める前に県庁がまず実行し、社会全体で子育て・子育てを応援できるよう気運を醸成します。

こどもや若者、子育て当事者を支援する人が笑顔で接することができるようにします

こどもや若者、子育て当事者を支援する人が幸せでなければ、こどもや若者、子育て当事者も幸せになれないとの考えにのっとり、こどもや若者、子育て当事者を支援する人を支援することで、笑顔で接することができるようにします。

県民とともに未来を創ります

「県民が主人公の県政」の考えにのっとり、現場主義を徹底した上で、こどもや若者、子育て当事者・関係者の視点を尊重し、なかなか声を上げられない方、弱き声、小さき声も含めて、そうした声にもしっかりと耳を傾け、対話しながら、くまもと新時代にふさわしい形でともに未来を創ります。

熊本県がこどものために取り組むうえで大切にすること

熊本県がこどものために取り組むうえで大切にすることは、次の3つに分かれます。
1つずつ、順番に見ていきます。

いつでも大切なこと

こどもの成長に合わせて
大切なこと



子育てサポートで大切なこと

※次ページ以降、それぞれの取組みの末尾にカッコ書きで記載のページ番号は、「こどもまんなか熊本・実現計画」中間整理の中で詳しく書いている箇所のページ番号です。ご関心に応じてご参照ください。[【資料掲載場所はこちら：県HP】](#)

いつでも大切なこと

- こどもも権利を持っている。このことを社会の皆さんに知ってもらい、こどもの皆さんが学べるようにします。(P11)
- 熊本県が自然豊かで農林水産業が盛んなことを活かしながら、いろいろな体験や遊びの機会をたくさん用意します。(P11~12)
- 病気や障がいのある子、外国人のこどもも支援していきます。(病気のこどもへの支援(P30)、障がいのあるこどもへの支援(P29~30)、外国人のこどもへの支援(P12~13))
- 貧困な状況で生まれ育っても、夢に挑戦できるようにしていきます。(P29)
- こどもの体と心が傷つかないように守っていきます。(P30~32)
- 犯罪からこどもを守れるように、警察や学校、住んでいる周りの皆さんで一緒に取り組んでいきます。(P34)
- 快適に移動できるように道をつくったり、バスや電車を便利にします。(P13~14)
- 将来おとなになったときにどんなことをしたいか考えるサポートをします。(P14、P18~19)



こどもの成長に合わせて大切なこと

(6才くらいまでの間)

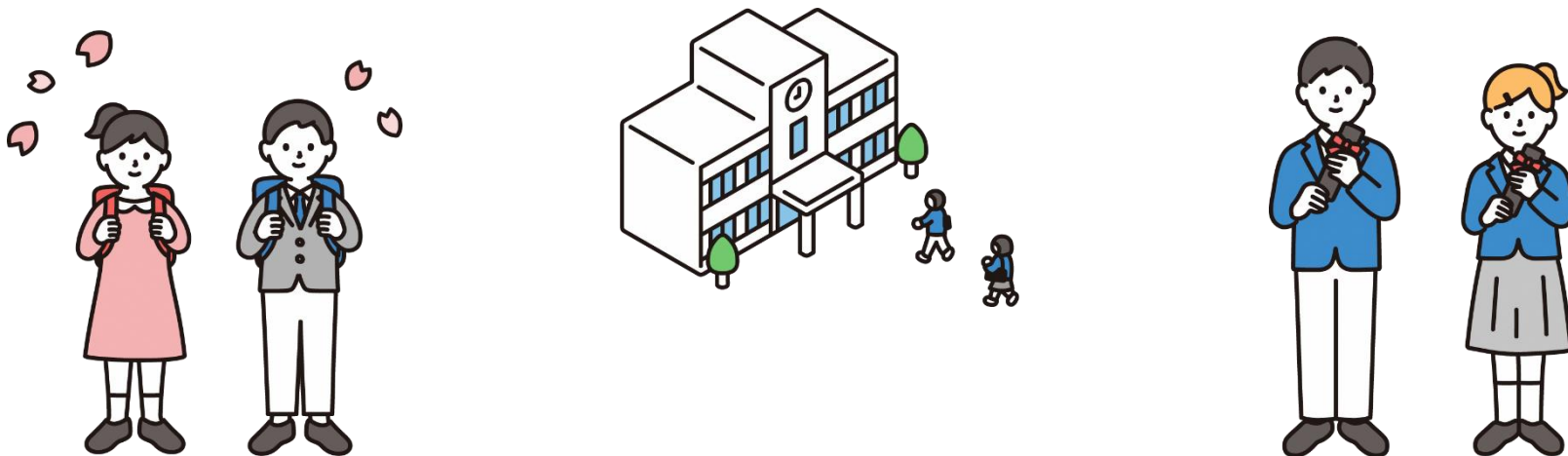
- こどもがお母さんのおなかの中にいるときから産まれた後も、親子がともに安心して元気にすごすためのサポートをします。(P23~25)
- 幼稚園や保育園などで、こどもの成長にとって大事な遊びの機会をたくさん用意して、良い学びができるようにしていきます。(P11~12、P16)



こどもの成長に合わせて大切なこと

(6～18才くらいの時期)

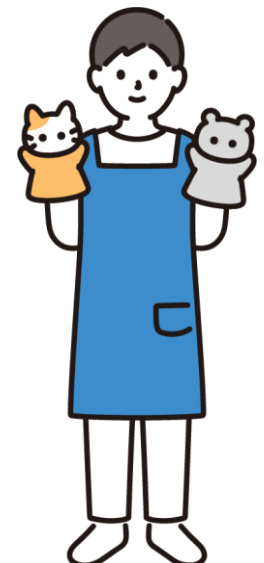
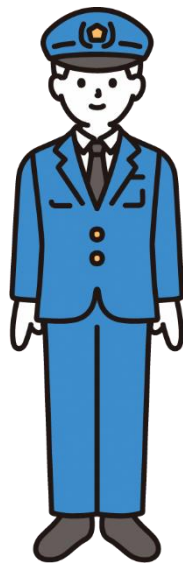
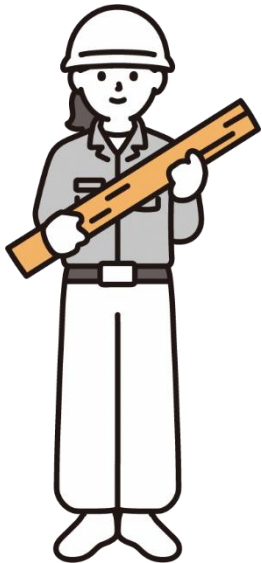
- 学校での生活がますます充実して楽しいものになり、こどもの皆さんが自分の良いところに気付けるよう取り組みを進めていきます。たとえば、こどもや先生など、いろいろな人たちから、よりよい学校づくりにつながる意見を聞いて、形にしていきます。(P36)
- 道徳や学活（ホームルーム）なども使っていじめ問題について考えるとともに、タブレット等を活用していじめを早く見つけたり、専門家に来てもらって相談しやすくしたりします。(P17)
- 不登校になったこどもが安心して学べるようにしていきます。(P17)
- こどもが先生から叩かれたり、不適切な指導をされたりすることはあってはいけません。そうしたことが起こらないようにします。(P11)
- ふるさとを誇りに思えるようにします。(P18)
- こどもが好きなことをしていい居場所を作っていきます。皆さんにとって心地の良い居場所になるよう、しっかり意見を聴きます。(P19)
- おとなになって社会で生きていけるように、国や社会の仕組みなどの大事な知識を伝えます。(P18～19)



こどもの成長に合わせて大切なこと

(18才～の時期)

- 若者が自分に合う仕事を見つけ、経験を積んでいけるようにサポートします。(P21)
- 若者や家族が抱える悩みへの相談体制を整えます。(P22)
- 熊本に住み続けたいと思えるようなまちづくりをしていきます。(P21～22)
- 結婚をしたいのに出会いがない若者には、出会いの場を用意するとともに、結婚後の新しい生活を安心してスタートできるようにサポートします。(P23)
- 妊娠期から幼児期までの期間に、切れ目のない保健や医療の確保を行います。例えば、不妊症等に対する相談体制の強化や、産後ケア事業の提供体制の確保等を進めていきます。(不妊症等に対する相談支援の強化 (P23)、産後ケア事業の提供体制の確保等 (P24))



子育てサポートで大切なこと

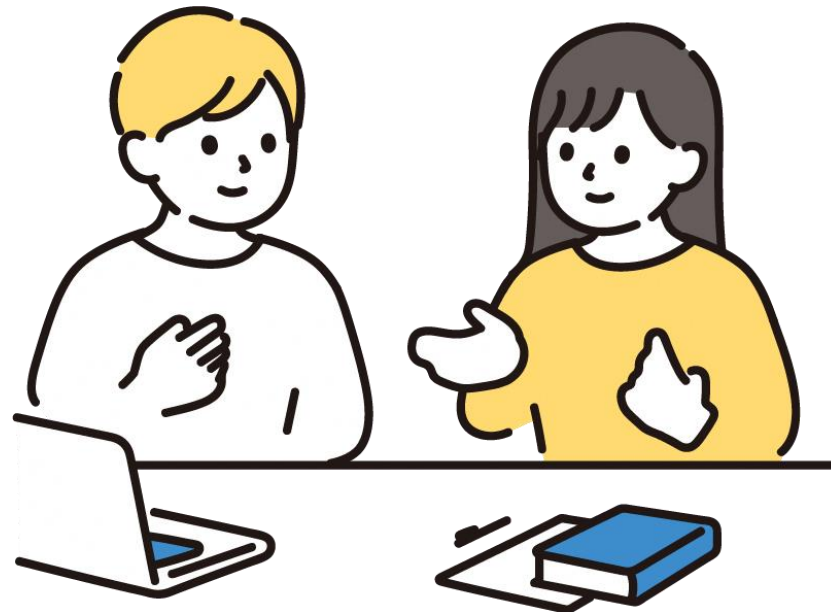
- 現代は核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などにより、周囲の人から子育てに関する助言や支援を得ることが難しい時代です。一方で、子育て当事者が経済的な不安や孤立感、仕事の両立になやむことなく、健康で自己肯定感とゆとりをもってこどもに向き合えることが、こどもの健やかな成長には欠かせません。
- これを踏まえ、子育てや教育に関する経済的な支援や、地域や家庭での子育てと教育の支援を行います。(子育てや教育に関する経済的な支援(P25)、地域や家庭での子育てと教育の支援(P26))
- また、共働き・共育てや男性の主体的な家事育児参加の促進やひとり親家庭への支援も進めます。(共働き・共育てや男性の主体的な家事育児参加の促進(P26~27)、ひとり親家庭への支援(P28))



「こどもまんなか熊本」をつくるために

(こどもの意見反映)

- こどもの考えを形にして、こどもがもっと社会に参加していけるように、こどもの意見を政策に反映していきます。こどもの皆さんが住む地域でもこどもが社会に参加して意見を形にできるようにしていきます。(P36)
- こどもが感じていることを大切にして、その感じていることを表現できるような場を作っていきます。(P36)
- 障がいを持っているこどもや家族から暴力を受けているこどもなど、意見が聞かれにくいこどもも意見を社会に伝えられるように、いろいろな方法で意見を聞いていきます。(P36~37)



「こどもまんなか熊本」をつくるために

(その他のポイント)

- こどもや子育てのサポートをする人をサポートします。(P37~38)
- こどもが安心して、いろいろなサポートを頼れるように、社会全体の意識を変えていきます。(P38)
- いろいろなデータを参考に、良い政策を形にしていきます。(P39)
- こども・若者のサポートに関わる人や団体と今まで以上に協力します。(P39)
- 手続きのシンプル化や分かりやすい情報の発信をしていきます。(P39~40)
- 熊本県知事をリーダーに、県庁全体で取り組みます。(P40~41)
- 目標と評価のものさしを決めて、取り組みを進めます。(P42)
- お父さんお母さんが働く会社や市町村と力を合わせて、サポートを形にします。(P40~41)
- こども政策を進めるのに必要な国のお金を確保します。(P43)
- 取り組みが正しく形になっているか、定期的に見直します。(P40~41)



「こういうことも大事にしてほしい」
「もっとこんな熊本になったらいいな」
「もっとこんなサポートをしてもらえたらいいな」

という、皆さんの声を聞かせてください。

意見の出し方

以下のいずれかの方法で意見を出してください。

- 1. 右の二次元バーコードからアクセス



- 2. 電子メール

熊本県子ども未来課メールアドレス
yokaboss-bosyu@pref.kumamoto.lg.jp

- 3. FAX

096-383-1427
熊本県 健康福祉部子ども未来課 子育て支援企画班 行

- 4. 郵送

〒862-8570（郵便番号を記載されるだけで県庁に届きます。）
熊本県 健康福祉部子ども未来課 子育て支援企画班 行